

総合評価

受診施設名	社会福祉法人なづな学園	施設種別	多機能事業所（就労継続 B：生活介護） （旧体系：）
評価機関名	一般財団法人 社会的認証開発推進機構		

平成 28 年 2 月 26 日

総 評	<p>1958年、支援学校や通所施設も整備されていない時代に、中学校卒業後の女子に対する居場所づくりやケアニーズに応え「なづな教室」開所し、以降、1969年に社会福祉法人なづな学園として通所授産施設を開設、2012年3月には現在の多機能型（生活介護・就労継続 B 型事業）事業所として、清水焼で有名な東山五条坂界限にて、地域と密着した運営を行ってこられました。法人内には、同種多機能型事業所“かしの木学園”や移動支援・居宅介護・行動援護・重度訪問介護を担う“ふらっぷ”、放課後等デイサービス事業“わかな”、他ケアホーム等が運営されており、「相手の立場に立ち、地域との繋がりを大切に、思いやりの心で、熱い心を持ちながら、共に支え合う場づくりに努める」という理念に基づいて、現理事長が長年にわたり、行政支援環境の無い時代から地域の一員として地域とともに一体感のある運営環境を構築し、尽力されてきた状況をうかがうことができます。</p> <p>それは、同学園近くにある高齢者施設修道洛東園内地域交流センターにて運営されている「CAFÉ & GALLERY」が、近隣の住民や施設利用者の憩いの場として親しまれ、利用者の就労場面として、愛でられている状況からも確認することができます。</p> <p>生活介護においては、「利用者が、自立した日常生活又はより豊かな社会生活を営むことができるよう、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立った支援をする中において、生産活動及び創作活動又、その他の活動の機会の提供を通じて、知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行うこと」を目的として、編物、織物、紙すき、紙工、陶芸、ダンス、音楽活動、機能訓練、ストレッチ体操、アート活動等の多様な活動をその人らしさの実現に向けて取り組まれています。</p> <p>また、就労支援事業では、「利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、通常の事業所に雇用されることが困難な利用者に対して就労の機会を提供するとともに、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立った支援をする中において、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行うこと」を目的として、陶芸作業織物作業・箱折作業・製菓作業・CAFÉ運営等を手がけられています。福を呼ぶふくろうやピエール・サンタさんのペン立て等、利用者の作陶活動による人気商品もあり、利用者がやり甲斐をもって作業に取り組まれている状況を見受けることができます。</p> <p>利用者の意向は、利用者面談や自治会を通じて、また「みんなの声対応要綱」を整備して、意見の汲み取りから反映までに努められている状況が施設内掲示物等からも確認することができます。ヒヤリハット等一部取組み状況について評価や見直し等について改善が求められる点もありますが、外出時の利用者安全カード他「マニュアルその他作成文書一覧」を整備し、組織として標準的なサービス</p>
-----	--

	<p>対応及び運営管理体制の構築にも努められています。</p> <p>今後も障害のある女性支援に特化した特徴的な事業所としての支援環境を構築され、利用者のQOL（生活の質）の向上に向けた運営が継続されますことを期待しています。</p>
特に良かった点(※)	<p>I－1－(I) 障害のある女性支援環境を構築される中で、法人の理念及び基本方針は明確にされ、法人ホームページや理念の掲示や職員会議、利用者自治会（月に1回開催）、他事業所合同保護者会等を活用し、利用者・保護者・役員・職員等が常に意識できるように継続した周知への取組み状況を確認することができる。</p> <p>II－5（1・2） 地域自治会に加入するほか、事業所の図書コーナーを地域の子どもたちにも開放して、利用者に関わる機会を設けている。修道学区夏まつりへの参加や「なづな展」を開催し、利用者が地域と関われる機会を推進している。また、地域生活に必要な社会資源一覧を作成し、利用者に情報提供を行っている。</p> <p>III－3－(1・2) 利用者の意見を汲み取る仕組みや意見に対して迅速に対応できるよう「みんなの声対応要綱（支援マニュアル）」を作成し運用している。また、利用者面談や利用者自治会運営を支援し、利用者の意見の汲み取りに多様な工夫が見受けられる。利用者とのコミュニケーション手段を確保する工夫がなされている状況も聞き取ることができる。</p>
特に改善が望まれる点(※)	<p>II－2－(3) 職員研修は積極的に行われ、研修参加実績や研修報告書の作成・提出が行われている状況は確認できるが、その評価や研修計画への反映見直しは行われておらず、事業所としても不十分であるとの課題認識がある。</p> <p>II－4－(1) 利用者の安全確保のためのリスク把握のため、ヒヤリハットやインシデント（事故報告）等の取組み状況は確認できるが、リスク回避にむけての実施状況や実効性についての評価・見直しに対する取組みに課題認識がある。それらの評価や分析、今後の計画・取組みに反映されることを期待したい。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。